



【韓国】 総合指数は週間で 1.0% 高と反発、2500 ポイント回復 ハイテク株が主導

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.0% 高と反発。週明け 15 日に心理的節目の 2500 ポイントを回復すると、世界的な株高や世界経済に対する楽観的な見通し、企業業績の改善期待を背景に週を通して総じて堅調に推移した。前週に売られたサムソン電子や SK ハイニックスなどのハイテク株が買い戻され、相場の上昇を主導。16 日終値は 17 年 11 月 24 日以来の高値を付けた。週央の 17 日は小反落したものの、週後半は続伸した。もっとも、高値警戒感が上値を抑え、2520 ポイントを超える水準では売り圧力が強まる場面も目立った。韓国銀行（中央銀行）が政策金利の据え置きを決めたが、影響は限られた。今週は指数が約 2 カ月ぶりの高値圏にあるだけに、利益確定売りが出やすい状況か。25 日に 17 年の国内総生産（GDP）が発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で 0.8% 高と 4 週続伸、今週は短期的調整も想定

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で 0.8% 高と 4 週続伸。海外株高と原油高に支援され、14 年 8 月以来の 1280 ドル台を一時的に回復した。一部銀行の好決算も支援材料となった。前週に 14 年 12 月以来の 70 ドル超えとなったブレント原油先物は、週序盤に 70.37 ドルまで上昇した後、68 ドル台半ばまで下落。週後半は米週間在庫統計で原油在庫の取り崩し量が前週より増加したことを受け、69 ドル台半ばまで値を戻すやや荒い展開。RTS 指数はこれを受け、週明け 15 日に 1270 ドル超えとなったものの、17 日には 1240 ドル台まで下落。週後半は原油相場の戻りに支援され 19 日序盤に 14 年 8 月以来の 1283.96 ドルまで上値を伸ばしたが、前日比 0.7% 安の 1270.92 ドルで取引を終えた。今週は短期的調整も想定されるが、底堅い展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は週間で 1.1% 高と 5 週続伸、今週はスピード調整に要警戒

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 1.1% 高と 5 週続伸。前週までの流れを引き継いだ。利益確定売りを交えながら上値を伸ばし、3 週連続で 07 年 11 月以来の高値を更新。中央銀行が国内銀行の不良債権比率が 16 年末の 2.46% から 17 年末時点で 2.3% に改善したと表明し、週前半は金融株が相場をけん引した。ベトナム製品の主要輸入国である中国の 17 年 GDP が実質で 6.9% 増と市場予想を上回ったことも支援材料となり、指数は週明けに 1060 ポイントを突破。その後、17 日終盤まで 1060 ポイント台を維持したが、最終的にマイナス圏に転落。週後半は一時、1020.01 ポイントまで下落したが、下値の堅さを確認すると上昇し、19 日には 1062.07 ポイントで週の取引を終了した。今週は堅調な展開を予想するが、スピード調整には要警戒。

▼指数チャート

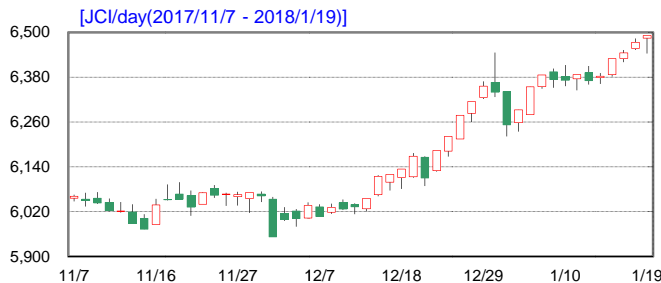


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.9%高、4日連続で過去最高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で1.9%高と続伸。週初から5日続伸と好調だった。15日は前週末に下落した反動で反発してスタート。17年12月の輸出入額が市場予想を下回り、5カ月ぶりに貿易赤字に転落したものの影響は少なかった。その後は16日に終値で6400ポイントに到達すると、週末まで4日連続で過去最高値を更新。18日の取引終了後に発表された政策金利は4会合連続で4.25%に据え置かれ、中央銀行は会合後の声明で今年のインフレ率が物価目標の3.5%付近で推移するとの見通しを示した。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。前週末のNYダウが反発したことは好材料。

▼指数チャート

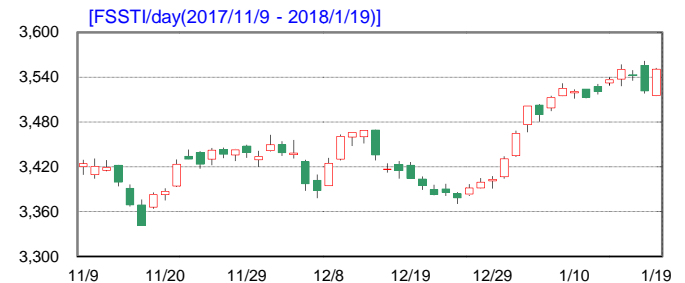


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.8%高、今週は17年12月のCPIと鉱工業生産発表

ストレーツタイムズ指数は週間で0.8%高と4週続伸。終始3500ポイントを維持し、総じて堅調な値動きだった。週初の15日は金融株が指数上昇をけん引。16日まで3営業日続伸したものの、17日は17年12月の非石油地場輸出が前年同月比3.1%増と市場予想から下振れたことが嫌気されて反落した。18日は前日のNYダウが大幅反発し、過去最高値を更新したことが買い材料にならず続落したが、19日は金融株が買い戻され、反発して引けた。今週は23日に12月のCPI、26日に鉱工業生産が発表される予定。鉱工業生産の前年同月比の伸び率が2カ月ぶりに2桁を回復すれば株式相場の追い風になる。

▼指数チャート

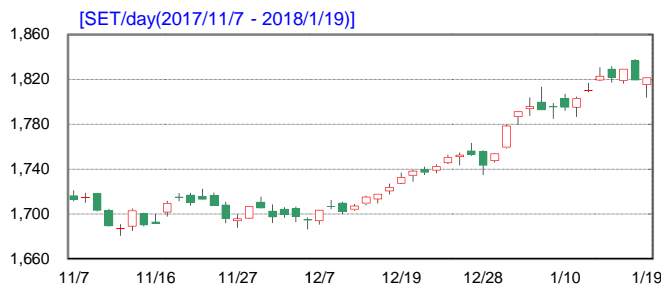


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 0.6%高、今週は17年12月の貿易統計が焦点

SET指数は週間で0.6%高と8週続伸。金融機関の決算発表が集中する中、1800ポイント台で一進一退を繰り返した。週初の15日は指数ウェートの大きいタイ石油公社(PTT)とタイ空港公社が指数上昇をけん引し、3営業日続伸。16日は小幅に反落したものの、17日には買い戻されて2日ぶりに終値の過去最高値を更新した。18日は取引終了後に17年期末決算の発表を控えたサイアム商業銀行の下落が響き反落。中国の10-12月期のGDP成長率は市場予想をわずかに上回ったが補えなかった。今週は22日に発表される12月の貿易統計(通関ベース)に対する市場の反応のほか、原油価格や米国株の動向が焦点。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.3%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

クアラルンプール総合指数は週間で0.3%高と8週続伸。週末の反発が奏功した。週初の15日は前週末のNYダウが過去最高値を更新した流れを引き継ぎ指数は続伸。その後もじりじりと上値を広げたものの、18日は利益確定売りで5営業日ぶりに反落した。一方、19日はペトロナス・ガスなどが買われ、反発して取引を終えた。今週は24日に17年12月のCPIが発表されるほか、25日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。政策金利は16年7月に3.00%に引き下げられた後、8会合連続で据え置かれてきたが、市場では今回の会合で0.25ポイントの利上げが実施されるとの見方も浮上している。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。